

令和5年度 防衛大学校卒業式
久保 防衛大学校長式辞

皆さん、卒業まことにめでとうございます。

本日、防衛大学校第68期本科生401名、理工学研究科および総合安全保障研究科前期課程学生70名、後期課程学生9名が卒業の佳き日を迎えました。この中には8カ国28名の留学生も含まれています。防衛大学校の教職員を代表して、本日小原台を巣立つすべての卒業生に対して、心からお祝いを申し上げます。本当におめでとうございます。

本日の式典には、岸田 文雄 内閣総理大臣・木原 稔 防衛大臣他、多数のご来賓のご臨席を賜っています。ご多忙の中でのご来訪に衷心よりお礼申し上げます。さらに、卒業生のご家族、ご親族はもとより、ホームカミングデーの一環として防大第23期卒業生の皆様も多数、諸君の卒業を祝うためにご臨席いただいています。23期生の皆様、長い間の御勤務、まことご苦勞様でした。68期の諸君も、ぜひ45年後に是非こうして母校に戻り後輩を励ましていただければ幸いです。

本科生の皆さん。

防衛大学校を卒業することは、一般大学よりはるかに難しいことでもあります。それだけに、卒業の喜びもひとしおではないかと拝察しています。

約4年前から始まった新型コロナウイルスの蔓延により、皆さんの学生生活の3年以上は、その対応策の中での生活とならざるを得なくなりました。その中で皆さんはよく事態を理解し協力してくれました。この点、特に感謝したいと思います。

研究科前期・後期卒業学生の皆さん。

研究科での研究は予想以上に厳しかったのではないかと想像しています。かつて執筆した卒業論文あるいは修士論文をはるかに超える高い水準の論文執筆が求められるなか、見事に修士あるいは博士の学位を取得されました。是非ともその成果を今後、日本の安全保障に、あるいは学術の発展に生かしていただければ幸いです。

留学生の皆さん。

言葉や文化の異なる国に来て、特に本科生の場合は5年の長きに渡って防大で学ばれ、そして本日卒業となりました。その努力に心より敬意を表したいと思います。また、我が国と本校を信頼し、優秀な学生を長期に渡って預けてくれた関係各国政府のご英断にもここに感謝の気持ちを表したいと思います。

また、ときに日本におけるお父さん・お母さんとして留学生の面倒をボランティアとして見てくださった留学生協力家庭の皆様、ご協力本当にありがとうございました。

陸海空各自衛隊の要員のみならず、研究科前期・後期の卒業生、さらには多数の留学生を送り出す本校の卒業式は、まさに陸海空及び本科・研究科統合型幹部自衛官養成機関としての本校の強みを余すところなく示すものであります。

卒業生の皆さんに、2点だけ申し上げたいと思います。

まずは「自信と誇り」を持って欲しいという風をお願いしたいと思います。皆さんは学業だけでなく、厳しい訓練を受け、また集団生活の中で他では得られないリーダーシップとフォロワーシップの力を磨きました。まさに将来大木、あるいは巨木となるべく、皆さんはここで地下深く根を張り、太い幹を作られました。多少の嵐が来ても十分耐えられる基礎ができていると確信しています。

国民・同胞を守るため、危険を顧みず職務を続ける皆さんは、公益への奉仕者、公務員の中の公務員としての職務を担うこととなります。そのような誇りをぜひ持ち続けてください。

もう一点は、同時に謙虚な気持ちも忘れないで欲しいということです。防衛庁長官も務めた中曽根 康弘 元首相は、この卒業式場で、幹部自衛官を「永遠の求道者」と定義しました。「常に人格の陶冶に心がけ、上司の信頼と部下の尊敬を受けるに足る品格と特性を身に付けるよう不断の努力を傾注されたい」とそこで述べられています。ぜひ皆さんにも、これを実践していただきたいと思います。とりわけ、血の通った心、熱い情熱、そして同僚・部下を包み込む人間力の涵養が重要であります。どうぞよろしく申し上げます。

なお、昨年から卒業式には任官を辞退した方にも出席してもらっています。防衛大学校の設立主旨からすれば、任官していただけないことは残念であります。しかし立派に卒業要件を突破したことには変わりありません。本校はここに集う皆さん全員にとっての母校であります。そしてぜひ、卒業後、同期との絆・友情を大事にしてください。

我が国を取り囲む安全保障環境は顕著に悪化しています。我が国は防衛費を増やすなど、安全保障政策を転換しつつありますが、しばらくは辛抱の時期が続きます。しかしながら、希望を持ち続けることはできます。希望を持ち続けることができる最大の根拠は、まさに皆さんの存在であります。

日本に万が一のことがあった場合、その対応の中心になるのは、ここに集う皆さんです。これからも職にある限り訓練と精進を続け、国を守るため日頃から万全の準備をしておいてください。ぜひ、皆さん全員が無事に職業的人生を全うされることを心よりお祈りしています。

最後になってしまいましたが、ご臨席いただいている卒業生のご家族・ご親族の皆様、本日はまことにおめでとうございます。入学時には、人によっては頼りない印象を与える学生諸君であったかもしれませんが、今は精進を重ね、見事防大を卒業しつつあります。本日はぜひとも「よく頑張ったね」と誉めてあげてください。

皆様からこれまで防衛大学校に対していただいたご支援に感謝しつつ、今後とも防大、防衛省・自衛隊、就中本日の卒業生諸君に対して、変わらぬご支援をいただくことができればまことに幸甚であります。

以上を持ちまして、本日の式辞とさせていただきます。

令和6年3月23日
防衛大学校長 久保文明